



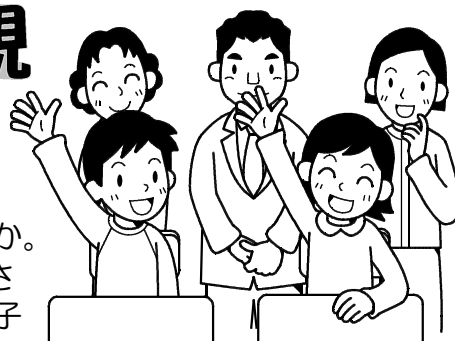
延島っ子

発行者 延島小学校長 田村芳広

電話 49-0004 FAX 49-2761

授業参観

先日は足下の悪い中多くの保護者の皆様に学校においていただき、ありがとうございました。子どもたち一人ひとりの表情、のびのびとしたよさを発揮している姿、真剣に学んでいる姿を御覧になっていただけたでしょうか。全クラスを2回みましたが、どの学年の子どもたちも皆さんの前で成長した姿を堂々と表現していたと思います。子どもたちは体も心もこの1年間で大きく成長しました。



また、校長懇談会への参加もありがとうございます。一年間のお礼を述べようと思って設定したのですが、新たに3校統合の話をするとか、学校評価での皆様の困り感について話をする等が出てきて、少々長くなってしまいました。しかし、皆様の真剣なお顔を見て、設定してよかったなと思っています。

そして、その後の懇談会への出席ありがとうございます。この1年間の成長を直接担任より聞くことができたと思います。懇談会はひとりの子どもをあいだに学校と家庭、教師と保護者が考えを共有し合う大切な時間です。引き続き、次年度も懇談会を重視してお互いに役に立つような懇談会になるよう努力いたします。

報告いたします

2/10 体力向上



小山市の児童の体力が国や県の平均より低いという結果が出たことを受け、昼休みに8回ほど運動に慣れる運動遊びを計画しました。6年生との思い出づくりも兼ねています。



2/16 なわとび記録会

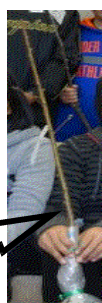
例年通り、なわとび記録会が実施されました。体育館は寒かったのですが、記録を伸ばそうと全ての子どもたちが精一杯頑張りました。



2/18 卒業記念樹

6年生に卒業をお祝いしてPTAより卒業記念樹がおくられました。卒業生一人ひとりが自分で選んだ木です。約1mほどの苗木ですが、大人になっても延島小を思い出すきっかけになればいいなと思いました。

これが苗木です。



2/19 3、4年珠算教室

講師の先生にお話を伺い、『そろばんは単に計算に使うだけにあらず』容積の単位変換や長さの単位変換等でも目に見えて理解できる事を知りました。3、4年は計算の基本的なやり方を指導していただきましたが、皆一生懸命取り組んでいました。



2/20 6年学級活動

小中一貫教育の一つとして、絹中学校の保健の先生にきていただき、入学前の自分を知ってもらおうという授業がありました。6年担任と延島小の保健の先生も一緒にティームティーチングを行いました。



2/24 4年総合 幼稚園

4年生が総合的な学習の時間で延島幼稚園を訪問しました。1対1で本を読んであげたり、木琴で鍵盤をたたくところを教えてあげたりして楽しく活動してきました。4年生は準備しているときも大変楽しそうに主体的に活動し、幼稚園を訪問する目的に沿って学習を進めてきました。



2/27 ボランティア感謝の会



農園、防犯、図書、読み聞かせ、樹木選定、せきれい号の貸し出し等のボランティアの方をお招きし感謝の会を行いました。会議室で今年度の反省会のあと、ランチルームで一緒に給食を食べていただきました。代表の子どもたちが感謝のことばを述べました。また、次年度も今年度同様をお願いしたいと思えます。

毛塚先生がお休みに入ります

今年度1年担任だった毛塚美保先生が2月26日から産休に入りました。代わって、旭小学校から川上恵子先生が新しく1年担任として延島小学校にきました。よろしくお願いたします。1年生や2年生を何回も担任したことがあり、福良小学校にも勤務したことがある経験豊富な先生です。毛塚先生にも安心して元気な赤ちゃんを産んでもらいたいと思います。



3分叱って、7分ほめる * * * * *

この言葉は、人間を育てるのには、叱ることを少なめにして、よいところを見つけてほめた方が効果があるという意味です。さて、保護者の皆さん、一日の生活の中で子どもをほめる割合は、どのくらいの比率になるでしょう。自分の行為がほめられ、認められるととても嬉しくなって、意欲がわいてきます。(これば子どもも大人も同じ) 小さなことでも、よいところを見つけ、「ほめ、認め、励ます」ことを通して、はじめて「叱る」ことが生きてきます。

人の長所は広い心から



ともすると、子どものよくない面だけが気になるものですが、子どもたちは一人ひとりそれぞれすばらしいものをもっています。それを認め、励まし育てるのが、大人としての大切な役目といえます。子どものよいところを発見し、認めることは、人として自分を大きくし、自分を成長させることにつながるのではないのでしょうか。子どもは、我々大人、親を育てるために、天から授けられているのかもしれませんが。学校でも子どもから学ぶことがたくさんあります。そのようなときに、子どもにはこんなよい面があるのだと気づきます。「よい面はわかってます。でもね…」よい面をきちんと受け止められない大人の言葉です。子どもたちは真っ白で純粋です。そのよい面を我々大人も無条件で受け止めてあげたいです。